令和４年度　土浦日本大学中等教育学校自己評価票

本校の目指す学校像	土浦日本大学学園建学の精神に基づき自主自立の気風を養い、中等普通教育及び高等普通教育並びに専門教育を一貫して教育することによって世界の平和と人類の福祉に寄与しうる人材の育成をはかり、社会に貢献することを目的とする。目的実現のため次の目標を掲げるものとする。 （１）豊かな語学力を習得し、世界の人々と対話のできる日本人を目指します （２）自分たちを育てた文化や社会を理解し日本の素晴らしさを世界に発信します （３）複雑化した現代社会を生き抜くために、教養を磨きさらに得意分野を生かした高度な専門知識を身につけます （４）読書、絵画、音楽等を通じて芸術や文化を愛し理解する心を磨き、みずみずしい感性を養います （５）さまざまな危機に直面する地球環境をつねに心の片隅において行動のできる人、地球にやさしい人を目指します

本校の特長及び課題	多様化する世界において格差を乗り越え，国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。そのために，次の 3 点を重視する。 1.　公正な精神のもとで「卓越性」を達成する 2.　社会という文脈の中で「読み解く力」を高める 3.　「相互依存」の関係を構築して主張する

令和 4 年度の取組結果

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
教育活動（教務）	・適正かつ効率的な学校運営	・在籍管理，年間行事計画，時間割編成，成績評価等の教学の根幹について適正かつ効率的に運営を行うことができた。 ・在籍管理については，転入・転出の処理で，他校と適切に連絡を取り合い適正に処理した。また，学年とも協力し各生徒の特徴を把握し学びの連続性を維持できるように配慮した。 ・年間行事は授業日数をできる限り配慮できるように工夫を凝らした。コロナ禍の制限を受けながらであるが，特別活動部と協力しスポーツデイやオープンハウスなどを実施できた。国内研修は，1 学年の東北研修，3 学年の長崎研修,5 学年の長崎研修を実施できた。海外研修は今年度はまだ実施できなかったが，コロナ禍が落ち着き，次年度は実施できそうであり，計画を進めた。 ・年間を通じての時間割を適正に編成した。学校行事で出張者	A

	・新たな教育課程の立案・運営・確認	が多い場合の臨時時間割の編成をその都度，迅速かつ適正に実施できた。 ・新学習指導要領への対応，本校らしい独自性ある教育の展開を目指し，教育課程や成績評価の方法を前年度まで準備してきた。 ・当年度ではテストの作問で思考力・判断力・表現力を問う出題を一定程度必ず出題するようにした。また，従来のメジャーメントについても思考力・判断力・表現力，主体性等を評価できるパフォーマンス課題に改めた。フォローの体制は更に充実させていきたい。 ・各学年と協力し，総合的な学習，探究の時間，道徳の時間の内容を充実させることができた。 ・本校の大きな特色のひとつである課外授業については引き続き安定して運営することができた。受験に直結する講座から体験型の講座まで種類を多様化させることができた。	
学校生活への配慮（生徒指導）	・安全な学校生活の実現 ・いじめ対策 ・生活マナー指導	・通学路の立哨指導，インターネット利用マナー，18 歳成人年齢について，薬物防止防犯交通安全講座，スクールカウンセラーによる教育講座「コミュニケーションのコツ」など定期テストごとに教育講座を実施し，生徒への意識づけを行うことができた。 ・年に 3 回，学校生活調査を実施し，その結果を学年や学校全体で共有し，共通した認識を形成した上で，指導を行った。特にいじめ防止対策員会を開催し，生徒指導部を中心に管理職，学年主任，保健室，カウンセラーら様々な観点から対策に取り組んだ。軽微な事象も「いじめ」と認知し対応した。 ・生徒会役員，マナーアップ委員の生徒も参加し，マナーアップ週間を実施し，朝玄関で身だしなみのチェックを行った。有無を言わさずに指導をするのではなく，納得しながらマナーを向上させるように指導することを意識した。まだ一部，服装や頭髪などの指導が必要な生徒がいる。家庭とも連携して継続して指導にあたっていきたい。また，併せて校則の見直しを生徒会とも協力して行っていきたい。 ・落とし物がこれまで多かったが掲示等での連絡方法を工夫することで返還率を高めることができた。 ・ご家庭との連携を更に重視してマナーの指導を進めていきたい。	B

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況

生徒会・部活動	・活発な委員会活動の実施 ・生徒主導で実施できる指導	・いくつかの委員会では昼の校内放送や各種行事を中心に積極的な活動を実施することができた。一方でまだ活動に消極的な委員会がある。活動内容の明確化し，生徒と共有することで，生徒自身に自覚と責任を持たせ，活発化を促していきたい。	B
進路指導	・日大進学者 45%，難関大学に 25 名以上の進学，海外大合格	・理系インター 1 期生を中心に，早稲田大学，慶應義塾大学，上智大学，東京理科大学，一橋大学，九州大学，筑波大学など難関大学の合格者を出すことができた。日本大学には医学部を含めて 90 名以上の合格者を出し，安定した進学実績を収めた。また，海外大学への進学者も複数出すことができた。 ・学園の情報処理室と連携し，受験大学及び方式を一元管理し，出願関係資料の作成合否データ処理を行った。 ・学部学科説明会などを通じて大学との連携を果たした。一方で，対面のオープンキャンパスの実施は人数の制限を行っている大学が多く，予約がうまく取れない生徒が発生した。	A

保健・衛生	・適切な健康診断の実施 ・健康管理への配慮 ・教育相談の充実	・生徒の健康診断については，当初の予定通り実施することができ，生徒の健康管理に努めることが出来た。 ・コロナ禍の中，体温測定，手指消毒の徹底をはじめ，生徒の状況によっては，保健所とも連携を深めて安全安心な学校づくりに努めた。 ・校内の情報共有システムを使いながら，保健室の利用状況をリアルタイムで職員室と共有し，生徒一人一人に対してきめ細かい対応を行うことができた。 ・カウンセラーの利用は限られた時間の中でも連携が取れている。今後も利用していない生徒にも利用してもらえるよう周知していきたい。	A
図書	・読書案内の充実 ・図書館活用率の向上 ・図書委員活動の活発化	・図書委員会では新規購入図書の紹介を各クラスへ行っている。 ・進路指導部と連携し，積極的な自習室の利用を励行している。 ・受験参考書を中心に，不明図書の改善が見込めないことが問題となっている。	B
広報	・建学の精神に基づく本校の教育方針に賛同する児童の募集	・4 年連続で志願者数が 1000 名（1174 名）を超え，定員 140 名を充足する入学者（160 名）を確保することができた。 ・感染対策を意識しながらも対面での入試関連行事を行うことができた。また，T-SITE でのイベントを 2 回実施し，本校の	A

	・6 ヵ年教育および大学進学を意図する，より質の高い生徒の確保 ・定員 140 名の充足と優秀な入学者の確保	教育方針に強く共鳴する層への広報に成功した。 ・ICAP，ACE，CSAT，ICL，ISAT，KBT，KBT 特待入試と特性の異なる入試を展開することで，多様な入学者の確保につながった。一方で試験種の増加に伴う煩雑さなどの課題が残った。	

評価項目	取組目標	取組結果	達成状況
管理運営	・教育方針の浸透 ・校務分掌機能の円滑化 ・企画管理	・教職員会議や朝の打合せ，校務運営委員会などの会議の形式を変更し，効率よく校務に取り組むことができるよう工夫した。 ・管理職研修や学年主任研修・新任研修などを実施し研鑽につとめることができた。 ・保護者からの出欠連絡をオンライン化し，欠席者情報をいち早く集約し把握に努めるとともに新型コロナの感染拡大を徹底した。 ・Slack や Google classroom を活用し教育 DX の実現に取り組んだ。	A

庶務	・感染対策を講じた上で，学校活動を支える運営を行うこと ・感染対策を講じつつ，保護者会活動の活性化を図ること	・入学式，卒業式では社会情勢を踏まえながら少しずつ制限を緩めつつ，入念な準備や折衝を行うことで，厳粛な運営をすることができた。 ・生徒数が増加している現状を踏まえて施設の効率的かつ有効な活用方法の模索や防災体制の見直しをする必要がある。 ・同窓会の活性化が懸念事項として例年挙げられる。活動制限の長期化に伴い，事業やノウハウの継承が困難になっている問題点がある。 ・制限のある中ではあるが，大学見学会，制服バザー，講演会などの保護者会行事をコロナ前に準じた形で実施することができた。	B
	・前期課程	・生活習慣，学習習慣の確立が見られた。1 学年では課外授業や夕方学習会の参加者が増加し，学習へ積極的に取り組む姿	

学年	・後期課程	勢があった。2 学年や 3 学年では学力推移調査や全国学力学習状況調査の結果の伸長や外部検定の取得者が増加した。一方で，学校行事の行動制限もあり，団体行動時の振る舞い等の課題が残った。また，学習面で取り残されている下位層へのフォローアップも課題となっている。 ・6 学年では基礎学力到達度テスト，大学入学共通テストに対して教員間で連携をしながら，効果的に対策をすることで，多くの生徒の進路実現を果たした。5 学年は学習に対して前向きに取り組む生徒が増えている。ベネッセ模試でも中上位層が増え，下位層が減り，全体として学力の向上が見られる。今後は現状の傾向を維持しつつも，さらにそれを向上させていく必要がある。特に学習時間の少ない生徒や学習内容が進路目標に合っていない生徒へのアプローチが課題となる。4 学年では基礎学力到達度テストを見据えた学力の向上や受験を意識した自発的な学習習慣の確立が課題となっている。本格的な受験指導の前に学年全体で意識の切り替えを行っていきたい。	A

達成状況評価基準	A	取組目標が十分達成された	「よくできている」「できている」割合が 90%以上
	B	概ね達成された	「よくできている」「できている」割合が 80%以上
	C	課題を多く残している	「よくできている」「できている」割合が 70%以上
	D	成果が出ていない	「よくできている」「できている」割合が 70%未満